

雪印メグミルク株式会社

2022年10月26日

グリーンボンド・フレームワーク

ESG 評価本部

担当アナリスト：大石 竜志

格付投資情報センター（R&I）は、雪印メグミルクが2022年10月に策定したグリーンボンド・フレームワークが国際資本市場協会（ICMA）の「グリーンボンド原則（GBP）2021」及び環境省の「グリーンボンドガイドライン2022年版」に適合していることを確認した。オピニオンは下記の見解に基づいている。

■オピニオン概要

(1) 調達資金の用途

グリーンボンドにより調達された資金は、再生可能エネルギーとして使われるメタンガス化設備、排水処理設備、認証紙や認証パーム油及びバイオマスプラスチックや軽量化した包材の購入費用に充当する。メタンガスはチーズを製造する際に生じるホエイやホエイから有用成分抽出後の副産物をメタン発酵処理することで生成され、発生したメタンガスをエネルギーとして利用するため、CO₂出削減効果が期待できる。排水処理設備の能力向上により、廃棄物（汚泥）発生量の抑制を図る。環境に配慮した原材料への切替えや石油由来プラスチックの使用量の削減は持続的な天然資源の活用につながる。ICMAのGBP2021で例示されている「再生可能エネルギー」、「汚染の防止と管理」、「天然資源の持続可能な管理・運用」の категорияに該当する。既存の工場施設・用地に設備投資するものであり、特段の環境負荷は想定していない。メタンガス化に伴い汚泥の増加が見込まれるが、汚泥乾燥設備の導入により汚泥を乾燥させ、肥料として売却する予定である。当該プロジェクトはSDGsの「7.すべてのエネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「11.住み続けられるまちづくりを」、「13.気候変動に具体的な対策を」、「15.陸の豊かさを守ろう」の達成に資する取り組みであると位置付けられる。以上より、調達資金の用途は妥当と判断した。

(2) プロジェクトの評価と選定のプロセス

調達資金が充当される適格プロジェクトは、CO₂の削減、廃棄物（汚泥）の削減、認証紙、認証パーム油及びバイオマスプラスチックへの切替えや包材の軽量化により石油由来プラスチックの使用量を削減するプロジェクトであり、これらは全て雪印メグミルクが環境面における重要課題として掲げる項目に合致している。財務部がサステナビリティ推進部及び関連部署と協議を行い、環境面・社会面におけるネガティブな影響への配慮を確認して適格クライテリアを満たすプロジェクトを選定する。選定された適格プロジェクトについては、代表取締役社長が最終決定する。プロジェクトの評価と選定のプロセスは妥当と判断した。

(3) 調達資金の管理

グリーンボンドにより調達された資金は、財務部が内部管理システムを用いて調達資金の充当状況を管理する。調達資金が適格プロジェクトに充当されるまでの間は、現金及び現金同等物にて管理される。調達資金の管理は妥当と判断した。

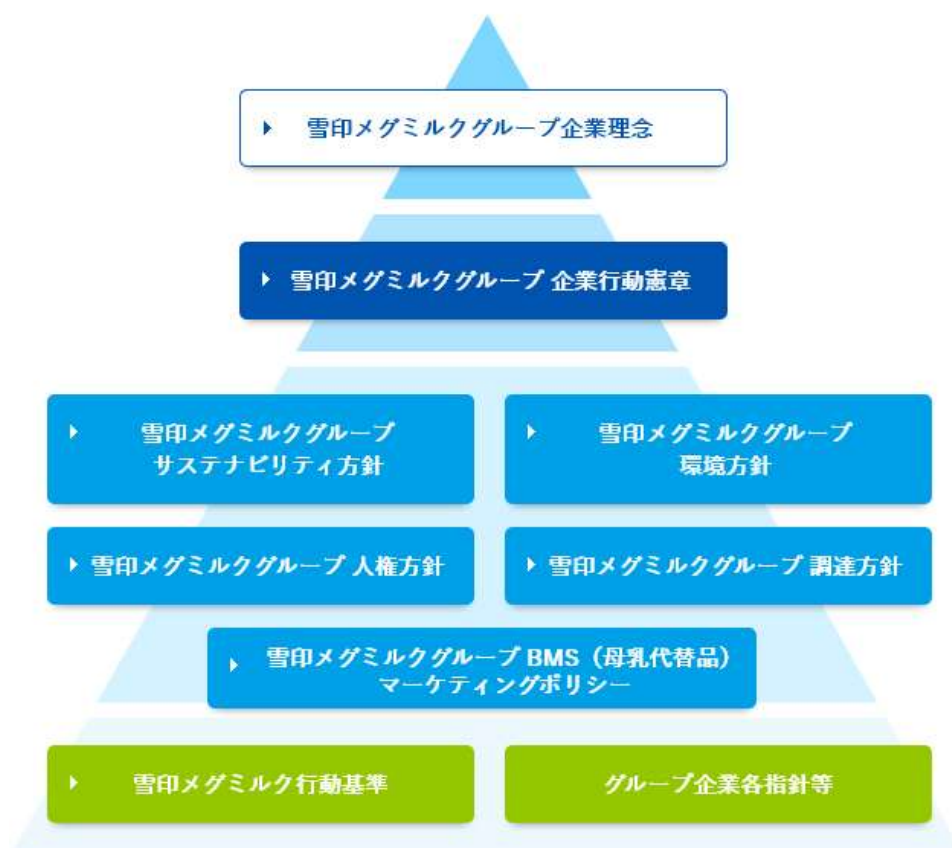
(4) レポーティング

調達した資金が全額充当されるまで、適格プロジェクトへの資金充当状況が年次で開示される。環境改善効果は、グリーンボンドの償還までの間、年次で発行体のウェブサイトにて報告する。レポーティングは妥当な内容と判断した。

発行体の概要

- 雪印メグミルクは総合乳業大手で、1925年酪農生産者による組織「北海道製酪販売組合」の創業を起源とし、2009年に雪印乳業と日本ミルクコミュニティが経営統合して設立された。チーズやバター、マーガリンなど国内トップシェア製品を持つほか、飲料・デザート類や飼料・種苗などの事業も手掛ける。
- 雪印メグミルクは「雪印メグミルクグループ企業理念」を実現するために、一人ひとりが日々理解し実践すべき行動の規範として「雪印メグミルクグループ 企業行動憲章」を定めている。この企業行動憲章に基づき、「雪印メグミルクグループ サステナビリティ方針」をはじめとする各種方針を定め、さらに、従業員個人の具体的行動の指針として「雪印メグミルク行動基準」などグループ各社の行動基準を定めている。
- グループの企業理念は、3つの使命とコーポレートスローガン「未来は、ミルクの中にある。」で構成されている。3つの使命（「消費者重視経営の実践」「酪農生産への貢献」「乳（ミルク）にこだわる」）を果たし、ミルクの新しい価値を創造することにより、社会に貢献する企業であり続けます——としている。

■サステナビリティ関連の各種方針の概念図



[出所：雪印メグミルクウェブサイト]

＜企業行動憲章＞

雪印メグミルクグループは、サプライチェーンのすべての段階において、「雪印メグミルクグループ 企業行動憲章」に基づき、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守し、高い倫理観のもと公正かつ誠実に行動していきます——としている。この憲章は以下の 10 項目を定義している。

1. 持続可能な企業価値の向上と社会課題の解決
2. 消費者との信頼関係
3. 公正な事業活動
4. 公正な情報開示、ステークホルダーとの対話
5. 働き方の改革と職場環境の充実
6. 環境問題への取組み
7. 人権の尊重
8. 危機管理の徹底
9. 地域社会とのパートナーシップ
10. 本憲章の徹底

＜サステナビリティ方針＞

雪印メグミルクグループは、事業活動を通じて、社会とともに持続的に成長していくためのサステナビリティ経営を以下のとおり推進している。

1. 重要課題（マテリアリティ）を特定し、具体的な目標を設定するとともに、取組み状況を定期的に開示します。
2. 「グループサステナビリティ委員会」および「全社環境会議」を定期的に開催し、サステナビリティ経営に関する取組み計画の策定、KPI の進捗確認を行い、PDCA サイクルを回すことによりサステナビリティ経営の継続的推進を図ります。
3. 雪印メグミルク株式会社の各部署とグループ各社にサステナビリティリーダーを配置し、コンプライアンス徹底や重要課題（マテリアリティ）の解決に向けて、全従業員が参加する「サステナビリティグループ活動」などの活動を行います。
4. 過去に雪印メグミルクグループが起こした事件への反省のもと、コンプライアンス徹底と未来に向けた社会課題解決のため、年 2 回、「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動」として、全従業員が参加する活動を行います。
5. 「雪印メグミルクグループ 企業行動憲章」を行動に移すために、グループ各社で「行動基準」を策定し、その浸透に努めます。

＜環境方針＞

雪印メグミルクグループは、「雪印メグミルクグループ 環境方針」を以下に定め、持続可能な資源の有効利用に努めている。

1. 法令の遵守
環境法令・条例および自主基準を遵守し、法改正などに迅速に対応します。
2. 環境への配慮
重要課題（マテリアリティ）を特定し、KPI を達成することで、限りある資源の有効利用、温室効果ガスや廃棄物の排出抑制、リサイクル・リユースに継続的に取り組みます。

3. 環境意識の向上
環境保全に対する自覚を持つとともに、環境教育を積極的に推進します。
4. 生物多様性の保全
事業活動において、資源を持続可能な形で利用することで、生物の多様性を保全し、未来の社会作りに貢献します。
5. 環境情報の開示
環境情報を積極的に開示し、透明性のある環境保全活動に努めます。

<重要課題(マテリアリティ)とKPI(重要管理指標)>

雪印メグミルクは社会およびグループの持続可能性の向上を図るため、社会への影響度とグループの事業への影響度が高い社会課題を抽出し、5つの重要課題(マテリアリティ)とKPI(重要管理指標)を設定している。この5つの重要課題は①乳(ミルク)による食と健康への貢献②持続可能な酪農への貢献③環境負荷の低減④多様な人材が活躍できる職場の実現⑤地域社会への貢献——である。以下は環境負荷の低減に関するKPI。

■環境負荷の低減

重点取り組みテーマ	KPI
地球温暖化の防止	2030年度までに、CO ₂ 排出量を2013年度比50%削減する。(※1)
持続可能な資源の利用	2022年度までに、使用する紙を100%環境に配慮した原材料にする。(※2)
	2026年度までに、認証パーム油100%調達を目指す。(※2)
	2030年度までに、環境に配慮した包装容器を開発・使用し、石油由来のプラスチックの使用量(売上原単位)を2018年度比25%削減する。(※3)
	紙・バイオマスプラスチックの容器を優先して使用する。(※2)
	ペットボトルの使用量削減のために、社内のマイカップ・マイボトルを普及推進する。(※2)
循環型社会の形成	2030年度までに、廃棄物排出量を2013年度比30%削減する。(※4)
	2030年度まで、廃棄物リサイクル率98%以上を維持する。(※4)
	2021年度までに、食品廃棄物リサイクル率95%以上にする。(※3)
	環境に配慮した商品開発を推進する。(既存商品・新規商品の賞味期間の延長や、賞味期限の年月表示を積極的に推進) (※2)
	2030年度までに、生産拠点の用水使用量を2013年度比9%削減する。(※2)
	毎年、生産拠点の水リスクを確認し、事業継続のリスク評価を行う。(※4)

※1 雪印メグミルク(株)、いばらく乳業(株)、甲南油脂(株)、直販配送(株)、みちのくミルク(株)、ハケ岳乳業(株)、雪印種苗(株)、雪印ビーンスターク(株)

※2 雪印メグミルク(株)

※3 雪印メグミルク(株)、いばらく乳業(株)、ハケ岳乳業(株)、雪印ビーンスターク(株)

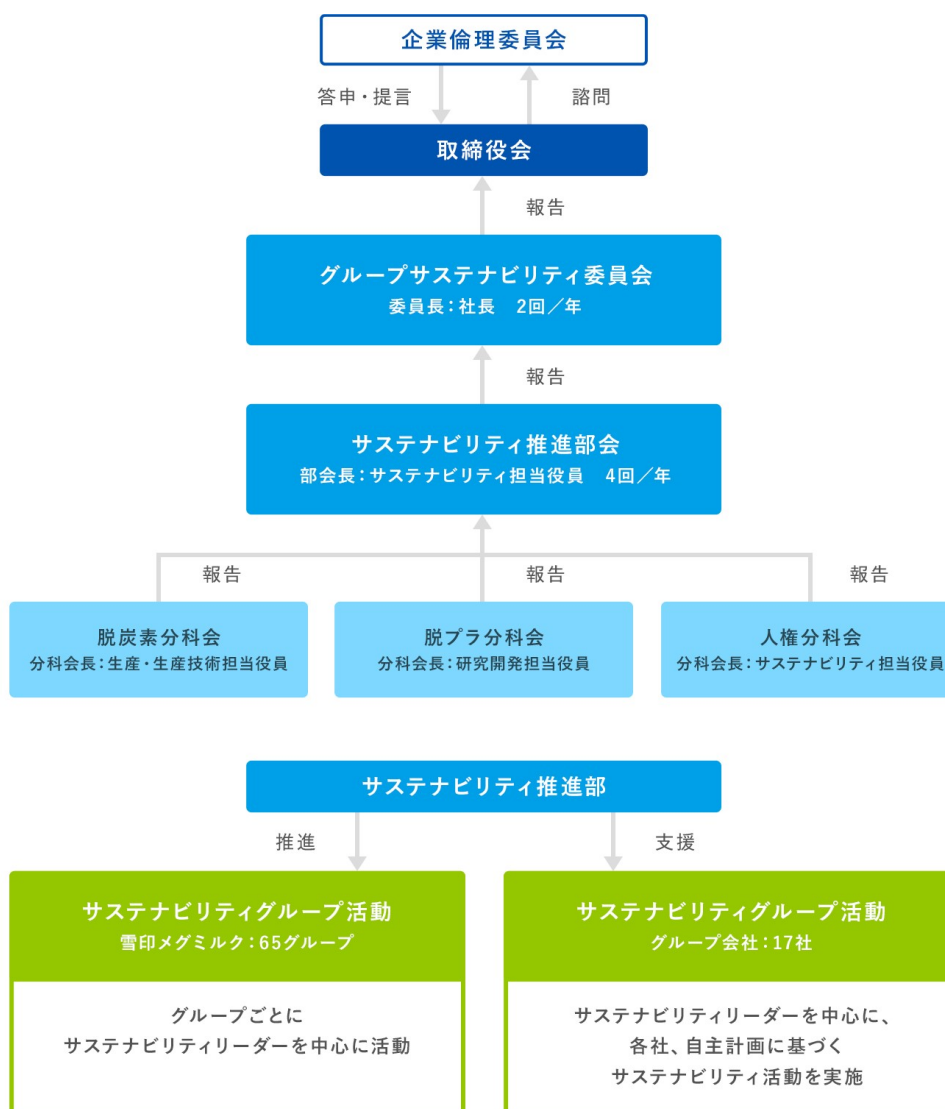
※4 雪印メグミルク(株)、いばらく乳業(株)、甲南油脂(株)、みちのくミルク(株)、ハケ岳乳業(株)、雪印種苗(株)、雪印ビーンスターク(株)

＜サステナビリティ推進体制＞

雪印メグミルクは 2022 年 7 月にグループ全体のサステナビリティを経営レベルで推進していくために「グループサステナビリティ委員会」を設置した。社長が委員長を務め、代表取締役を含む全担当役員、サステナビリティ推進部長を委員とし、グループ会社社長参加のもと、重要課題の KPI の進捗確認や達成に向けた協議を行い、取締役会に報告している。その下には「サステナビリティ推進部会」を設置し、サステナビリティ担当役員が部会長を務め、委員として社長が参加する中、サステナビリティ課題の PDCA を行っている。「脱炭素分科会」、「脱プラ分科会」、「人権分科会」からの報告を受け具体的な取組みを検討している。

また、従業員に対しては、雪印メグミルクの各部署とグループ会社にサステナビリティリーダーを配置し、『サステナビリティグループ活動』などにより、サステナビリティの浸透、社会課題解決に向けた取組みを推進している。その他、「社外の目」による検証や提言をサステナビリティ経営に生かすため、取締役会の諮問機関として、社外の有識者・社内労働組合の代表および社内委員によって構成される企業倫理委員会を設置している。

■ サステナビリティ推進体制



[出所：雪印メグミルクウェブサイト]

1. 調達資金の使途

(1) 対象プロジェクト

- グリーンボンドにより調達された資金は、以下の適格クライテリアを満たす新規または既存のプロジェクトに充当する予定である。既存のプロジェクトに充当する場合は、グリーンボンドの発行日から遡って4年以内に行われた設備投資に係る支出、又は1年以内に発生した費用に係る支出を対象とする。

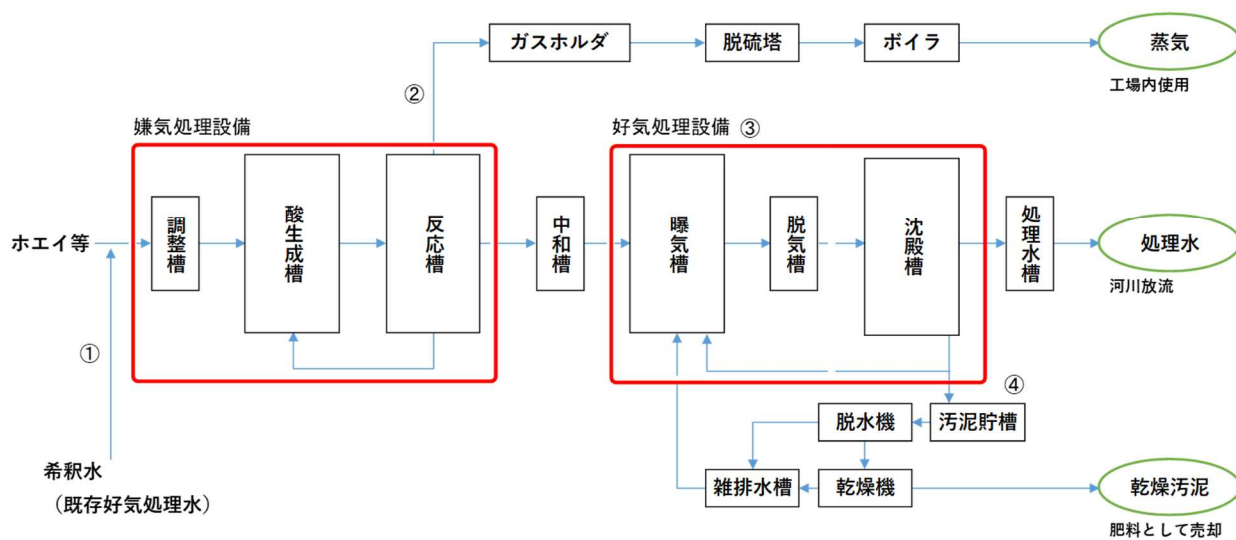
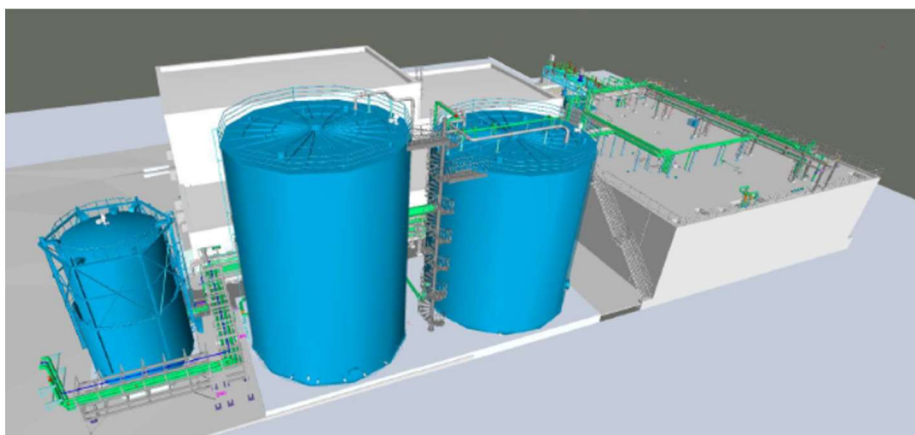
■ 対象プロジェクトの概要

	グリーンボンド原則適格カテゴリー 及び環境目標	適格クライテリア
1	再生可能エネルギー 環境目標：気候変動の緩和	ホエイやホエイの有用成分回収工程で発生する副産物のバイオマスをメタンガス化する設備の導入
2	汚染防止と管理 環境目標：汚染の防止及び管理	廃棄物（汚泥）削減に資する排水処理設備投資
3	天然資源の持続可能な管理・運用 環境目標：天然資源の保全	環境に配慮した原材料への切替えや石油由来プラスチックの使用量の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林認証紙など環境に配慮した容器包装、段ボールへの切替え ・ 認証パーム油への切替え ・ バイオマスプラスチックや軽量化した包材への切替え

<再生可能エネルギー>

- ・ チーズを製造する際に生じる乳清とも呼ばれるホエイや、ホエイから有用成分抽出後の副産物をメタン発酵処理し、発生したメタンガスをエネルギーとして利用するための設備を導入することにより、エネルギー使用量の削減、CO₂排出量の削減を実現する。
- ・ 本プロジェクトにおけるCO₂の削減については、新規設備稼働エネルギー利用（汚泥乾燥機含む）による増加分を、メタンガスの蒸気利用及びホエイに含まれる有用成分を用途に応じた最適な形で回収する用途転換を行い、ホエイパウダーの製造を中止することによる削減が大幅に上回る計画になっている。
- ・ 計画初年度(2022年度)よりメタン発酵処理設備の建設に着工し、2023年4月より稼働を開始、2023年度中に最大負荷運転に移行する。

■メタンガス化設備イメージ



[出所：雪印メグミルク]

- ① ホエイやホエイから有用成分抽出後の副産物を既設好気処理※1水で希釈後、嫌気処理※2を行う。
- ② 嫌気処理で発生したメタンガスは、ガスタンク貯留後、ボイラにて蒸気に転換し、工場内のエネルギーとして活用する。
- ③ 嫌気処理水は、後工程に新設する好気処理設備にて排水処理後、河川放流する。
- ④ 好気処理で発生した余剰汚泥は、脱水・乾燥後、肥料として売却する。

※1 好気処理は酸素を好む微生物により処理を行うこと。

※2 嫌気処理は酸素を好まない微生物により処理を行うこと。

<汚染の防止と管理>





- ・工場が一番多く発生する廃棄物である排水処理から排出される汚泥について、油分の分解に優れた酵母を用いて、前処理でより多くの有機物を分解する排水処理設備へ更新、または汚泥の自己消化により減容させる汚泥減容化設備を導入することで、余剰汚泥の発生を抑制する。
- ・メタン発酵処理により好気処理設備から汚泥が発生するが、新設の汚泥乾燥機で乾燥させ、肥料として売却する予定である。
- ・工場の既存排水処理設備で発生する汚泥も今回導入する汚泥乾燥機で乾燥させることにより、汚泥を肥料として売却する予定である。
- ・乾燥時に使用するエネルギーはメタンガス発酵処理で得られたエネルギーを使用する。

<天然資源の持続可能な管理・運用>

- ・紙容器の原材料について、「環境に配慮した原材料」には、責任ある森林管理がなされた森林および、そこから生まれた林産物に対する国際的な森林認証制度である PEFC などの森林認証紙の他、再生紙を原料の一部に使用している容器包装を含む。なお、全ての使用する紙を 2022 年度までに環境に配慮した原材料に移行することを目指している。
- ・現在、マーガリン類に使用しているパーム油を認証パーム油に切り替えていく。中期的に 100% の切り替えを目指す。雪印メグミルクは 2018 年 7 月に RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）に加盟し、認証油の購入を一部原材料から開始してきた。
- ・現状、商品の容器包装に使用されているプラスチックの軽量化などにより、石油由来プラスチックの使用量を削減するとともに、バイオマスプラスチックへの切替えについても、検討を始めている。

<SDGs への貢献>

- 本債券による調達資金を充当するプロジェクトは、省エネルギー、CO₂削減に寄与する。SDGs への取り組みにおける、「7.すべてのエネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「11.住み続けられるまちづくりを」、「13.気候変動に具体的な対策を」「15.陸の豊かさを守ろう」に資する取り組みであると位置付けられる。

SDGs	
 7 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。	7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。
 11 住み続けられるまちづくりを	11.6 2030年までに、大気の水質やごみの処理などに特に注意をはらうなどして、都市に住む人（一人当たり）が環境に与える影響を減らす。
 13 気候変動に具体的な対策を	13.2 気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。
 15 陸の豊かさを守ろう	15.2 2020年までに、あらゆる種類の森林の、持続可能な形の管理をすすめ、森林の減少をくいどめる。また、おとろえてしまった森林を回復させ、世界全体で植林を大きく増やす。

(2) 環境改善効果

- プロジェクトを通じた CO₂削減に関しては、メタンガス利用によるエネルギーの転換に加えてホエイパウダーの製造中止に伴う削減に対し、汚泥の乾燥により新たにエネルギーを使用する分が増えるが、増加する分を大幅に上回る CO₂削減量により十分な環境改善効果が期待できる。また、副次的な効果としてホエイパウダー製造中止により、工場における水の使用量も 1 割以上削減される。
- 排水処理から排出される汚泥について、既存の排水処理設備を更新、または新規設備を導入することにより、余剰汚泥の発生を抑制することは、廃棄物の削減につながる。メタン発酵処理により汚泥が発生するが、新設の汚泥乾燥機で乾燥させ、肥料として売却する予定。また、工場の既存排水処理設備で発生する汚泥も今回導入する汚泥乾燥機で乾燥させることにより肥料として売却する予定である。
- 森林認証紙など環境に配慮した容器包装、段ボールへの切替え、認証パーム油への切替え、バイオマスプラスチックへの切替えや包材の軽量化などによる石油由来のプラスチック使用量の削減は、それぞれ、持続的な天然資源の活用につながる。

(3) 環境面・社会面におけるネガティブな影響への配慮

- 法令を確実に遵守し環境リスク低減活動に努めており、適格プロジェクトについては、各種法令等に沿って適切に対応し、潜在的にネガティブな環境面・社会面の影響に配慮している。
- 既存の工場施設・用地に設備投資するものであり、特段の環境負荷は想定していない。メタンガス化に伴い汚泥の増加が見込まれるが、汚泥乾燥設備の導入により汚泥を乾燥させ、肥料として売却する予定である。

グリーンボンドにより調達された資金は、再生可能エネルギーとして使われるメタンガス化設備、排水処理設備、認証紙や認証パーム油及びバイオマスプラスチックや軽量化した包材の購入費用に充当する。メタンガスはチーズを製造する際に生じるホエイやホエイから有用成分抽出後の副産物をメタン発酵処理することで生成され、発生したメタンガスをエネルギーとして利用するため、CO₂排出削減効果が期待できる。排水処理設備の能力向上により廃棄物（汚泥）の抑制を図る。環境に配慮した原材料への切替えや石油由来プラスチックの使用量の削減は持続的な天然資源の活用につながる。ICMA の GBP2021 で例示されている「再生可能エネルギー」、「汚染の防止と管理」、「天然資源の持続可能な管理・運用」の категорияに該当する。既存の工場施設・用地に設備投資するものであり、特段の環境負荷は想定していない。メタンガス化に伴い汚泥の増加が見込まれるが、汚泥乾燥設備の導入により汚泥を乾燥させ、肥料として売却する予定である。当該プロジェクトは SDGs の「7.すべてのエネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「11.住み続けられるまちづくりを」、「13.気候変動に具体的な対策を」、「15.陸の豊かさを守ろう」の達成に資する取り組みであると位置付けられる。以上より、調達資金の使途は妥当と判断した。

2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

(1) 包括的な目標、戦略等への組み込み

- 雪印メグミルクは企業行動憲章、サステナビリティ方針、環境方針などにおいて環境への取り組みを掲げている。加えて、重要課題において具体的な KPI を設定し、環境負荷の低減を進めている。
- グリーンボンドの資金使途は、CO₂の削減、廃棄物（汚泥）の削減、認証紙、認証パーム油及びバイオマスプラスチックへの切替えや包材の軽量化により石油由来プラスチックの使用量を削減するプロジェクトであり、これらは全て環境面における重要課題として掲げた項目に合致している。

(2) プロジェクトの評価・選定の判断規準

- 適格クライテリアとして、ICMA の GBP2021 におけるプロジェクトカテゴリー「再生可能エネルギー」「汚染防止と管理」「天然資源の持続可能な管理・運用」に該当することが定められている。また、環境面・社会面におけるネガティブな影響への配慮を確認して決定されている。なお、除外クライテリアとして下記に関連するプロジェクトには充当しないとしている。
 - ・ 所在国の法令を遵守していない不公正な取引、贈収賄・腐敗・恐喝・横領等の不適切な関係
 - ・ 人権・環境等社会問題を引き起こす原因となり得る取引

(3) プロジェクトの評価・選定の判断を行う際のプロセス

- 財務部がサステナビリティ推進部及び関連部署と協議を行い、適格クライテリアを満たすプロジェクトを選定する。選定された適格プロジェクトについては、代表取締役社長が最終決定する。

上記に基づき、プロジェクトの評価と選定のプロセスは妥当と判断した。

3. 調達資金の管理

- グリーンボンドにより調達された資金は、財務部が内部管理システムを用いて調達資金の充当状況を管理する。
- 調達資金が適格プロジェクトに充当されるまでの間は、現金及び現金同等物にて管理される。
- 調達した資金は発行から 2 年以内に充当を完了する予定。

上記に基づき、調達資金の管理は妥当と判断した。

4. レポーティング

(1) 開示の概要

- レポーティングの概要は以下の通り。適格プロジェクトに発行代わり金が全額充当されるまで、発行代わり金の充当状況を年次で、ウェブサイト上に開示する。
- 開示内容は、適格プロジェクト概要、適格カテゴリー単位での資金充当額、発行代わり金の未充当資金額及び充当額全額のうちリファイナンスとして充当された金額。
- 発行代わり金の全額充当後、大きな変更が生じる等の重要な事象が生じた場合は、適時に開示される。
- インパクト・レポーティングは、グリーンボンドの発行代わり金資金が償還されるまでの間、対象事業の概要及び環境効果に関する指標等を、実務上可能な範囲で年次でウェブサイト上に開示する。

	開示事項	開示タイミング	開示方法
資金充当状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適格プロジェクト概要 ・ 適格カテゴリー単位での資金充当額 ・ 発行代わり金の未充当資金額及び充当額全額のうちリファイナンスとして充当された金額 	調達資金が全額充当されるまで、年に1度	雪印メグミルクのウェブサイトにて公表
環境改善効果	<p>以下の環境改善効果に関する指標等を、実務上可能な範囲で開示する。</p> <p><再生可能エネルギー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CO₂削減量 (t-CO₂) <p><汚染防止と管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 汚泥の削減量 (t) <p><天然資源の持続可能な管理・運用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境に配慮した原材料の使用比率 (%) ・ 石油由来のプラスチック削減量 (%) 	グリーンボンドの償還までの間、年に1度	

(2) 環境改善効果に係る指標、算定方法等

- 環境改善効果に係る指標について、プロジェクト毎に算定して開示する。

環境改善効果（年間 CO₂排出削減量等）はグリーンボンドの償還までの間、年次で発行体のウェブサイトにて報告する。レポーティングは妥当な内容と判断した。

以上

【留意事項】

セカンドオピニオンは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

セカンドオピニオンは、企業等が環境保全及び社会貢献等を目的とする資金調達のために策定するフレームワークについての公的機関または民間団体等が策定する当該資金調達に関連する原則等との評価時点における適合性に対するR&Iの意見です。R&Iはセカンドオピニオンによって、適合性以外の事柄（債券実行がフレームワークに従っていること、資金調達の目的となるプロジェクトの実施状況等を含みます）について、何ら意見を表明するものではありません。また、セカンドオピニオンは資金調達の目的となるプロジェクトを実施することによる成果等を証明するものではなく、成果等について責任を負うものではありません。セカンドオピニオンは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。セカンドオピニオンは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&Iはセカンドオピニオンを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としております。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。

R&Iがセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報は、R&Iがその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、R&Iは、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&Iは、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

R&Iは、R&Iがセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報、セカンドオピニオンの意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報やセカンドオピニオンの使用に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むもの）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何やR&Iの帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとします。セカンドオピニオンに関する一切の権利・利益（特許権、著作権その他の知的財産権及びノウハウを含みます）は、R&Iに帰属します。R&Iの事前の書面による許諾無く、評価方法の全部又は一部を自己使用の目的を超えて使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）し、又は使用する目的で保管することは禁止されています。

セカンドオピニオンは、原則として実行体から対価を受領して実施したものです。

【専門性・第三者性】

R&Iは2016年にR&Iグリーンボンドアセスメント業務を開始して以来、多数の評価実績から得られた知見を蓄積しています。2017年からICMA（国際資本市場協会）に事務局を置くグリーンボンド原則／ソーシャルボンド原則にオブザーバーとして加入しています。2018年から環境省のグリーンボンド等の実行促進体制整備支援事業の実行支援者（外部レビュー部門）に登録しています。

R&Iの評価方法、評価実績等についてはR&Iのウェブサイト（<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>）に記載しています。

R&Iと資金調達者との間に利益相反が生じると考えられる資本関係及び人的関係はありません。